

世界を目指す自転車競技者における英語の重要性

日本語学ゼミナール 1216020 石原悠希

1. 研究動機・研究目的

私は大学三年生のときからフランス、ラトビア、アメリカ、コロンビアなど世界各国から集まった選手で構成されたインタープロサイクリングアカデミーと呼ばれる自転車ロードレースのチームに所属している。自転車ロードレースのプロの世界はカテゴリーがレベルによって異なる。UCI と呼ばれる世界自転車競技連盟が定めた規則にのっとり、ツールドフランスのような大陸ごとに分かれたワールドツアーと呼ばれるレースを主に走るのワールドツアー(世界に 20 チーム)、次にそのレベルに近い選手や主に将来ワールドツアーを走るだろう選手が経験を積むことを主たる目的とするプロコンチネンタルチーム(世界に 40 チーム)、更にその下のレベルにあたるコンチネンタルチームに分かれている。インタープロサイクリングアカデミーはこのコンチネンタルチームにあたる。UCI のチームはルール上、国の自転車競技連盟に所属、登録しなければならず、UCI ワールドツアーチームやプロコンチネンタルチームは主にスポンサーの関係などを色濃く反映されるため、欧米登録や中東登録などの国籍のチームが多い。日本国内には日本登録にしているワールドツアーチーム、プロコンチネンタルチームは1つもなく、コンチネンタルチームがおおよそ5チームあり、世界で活躍している日本人選手の割合も低い。その中でもインタープロサイクリングアカデミーは、自転車競技の本場であるヨーロッパでの活躍を目指す選手や海外で将来のために走る選手、元ワールドツアー選手などのレベルの選手も所属しているなど国籍も豊かであり、コミュニケーションにおいて英語を話す能力は欠かせない(国内の日本の自転車チームは多くが日本人選手しか所属していないチームであり、英語でのコミュニケーションは全く問題なくとることが出来る)。そのような背景がある中、インタープロサイクリングアカデミーチームの共通の言語は英語であり、活動の多くの時間、英語で話さなければならない機会がある。私は英語をあまり話すことが出来ずコミュニケーションに困った経験があり、将来プロの世界で活躍していくためには英会話が重要であると痛感した。

本研究では、日本などの英語圏ではない地域、国で生まれた選手にとって英語の能力がどれだけ自転車ロードレース界に重要なのかを考察し、そして海外で自転車をやりたいという人が最低限覚えるべき言葉などまとめたものを作り、その英語力を身に着けるためには何を改善して具体的に何をすればよいのかを掘り下げていきたい。

2. 研究方法

今後の更にグローバル化していく社会で多くの人々とコミュニケーションをとり人間関係を構築し、将来、日本からワールドツアーへとステップアップするまでには、言葉の壁が非常に高いと思われる。自転車競技選手として海外のチームに所属しながら世界中でレースを行うワールドツアーに参加し、プロコンチネンタルチームの選手のようにコミュニケーションを問題なくこなせるようになるためには、どのくらい英語が必要なのか。実際に海外で活躍する日本人ワールドツアーの選手のレーススケジュールを比較すると、練習

やレース会場への移動などで忙しい中一日にどのくらいなら英語を勉強することが可能か。そして、その英語はどのように学ぶことがより効果的なのか、もしも英語を話すことが出来た場合、競技者の視点からなどどのような点で競技にまたは競技以外にプラスになるのか。これらのことを、インタープロサイクリングチームで様々な文化圏の選手とコミュニケーションを取る中で検討した。

3. 主な結果と考察

今後自転車ロードレースは、より国際化が進みより多くの国や地域でのレースや様々な文化圏の選手が増えていくことが考えられる。そのような状況下でも世界共通の言語である英語での会話の能力は重要になってくると思う。そのような中で今後英語を話す上での課題は、英単語そのものの知識の量を増やすこととともに英熟語の知識も増やさなければならぬことがわかった。海外のチームメイトとの会話の経験から英会話を理解することは英単語や英熟語が分かればある程度理解することが出来るのではないだろうか。逆に英単語を覚えていかなければ、いくら外国人のチームメイトと会話をしたり、レースを走ったり、一緒に生活したりしたとしても難しいのではないだろうか。そして単語がある程度理解できるようになってからはネイティブの英語の流暢な口調でも理解できるようになる練習をすることでより多くの多国籍な選手とコミュニケーションをとることができるようになることへとつながるのではないだろうか。そのためにはより多くのネイティブの人や外国人とのかかわる機会を増やすことが大切だと考えられる。より多くの外国人と接することで自分の英会話能力の向上を図り、経験を積み重ねることで英会話能力を向上させたい。

4. 結論

ワールドツアーで走るためには、コミュニケーションのツールとして最低限の英語を理解できていれば、日常生活からチームメイト、監督から信頼を得ることができ、さまざまな海外のレースにおいてもストレスなく過ごすことができると思う。選手として競技レベルを向上させるには外国人コーチからの専門的なトレーニングを受けるのが最も効率よく、効果的な現段階での方法で、若くしてワールドツアーで活躍する選手は皆、科学的なアプローチを受けることができる。そして、英語を学ぶことで選手を引退したあとのセカンドキャリアの活動の選択肢も広がり、広い視野から自転車業界に携わることができるのではないのだろうか。私がこれからワールドツアーチームに行くためには英語を身につけることが最低限必要なことであり、ワールドツアーへの道の第一歩になると結論付けた。

5. 卒業論文の執筆を終えて

私は今後ワールドツアーで海外を拠点にレースを走るためには英語の能力を改善させなければ難しいということが分かった。よって日々の生活の隙間時間などをうまく活用して徐々に身に付けていきたいと思う。